

<チェックリスト>

令和7年産に向けた健全な種いもを確保するため、病害感染のリスクが低いほ場として選定した「種いも専用ほ場」で栽培しましょう。

- 1 病害感染リスクが低い「種いも専用ほ場」を設置すること。
【種いも専用ほ場の条件】
 - 前作で病害発生が無く、排水が良好
(例1) さつまいもを2年以上栽培していないほ場
(例2) 前年に水稻を栽培(湛水)した乾田(排水対策は必ず実施)
 - 周辺ほ場から雨水等による病原菌流入のおそれがない

- 2 土壌消毒や薬剤防除など、栽培管理を徹底すること。
 - 殺菌効果のある薬剤(バスアミド微粒剤等)を用いて、必ずビニールで全面被覆して土壌消毒を実施。
 - 植え付ける苗は、バイオ苗(から増殖した苗)を使用する。
 - 薬剤防除は、通常の栽培と同様に入念に行う。

- 3 種いもの収穫方法。
 - 生育日数の目安は、120日~130日とする。
 - 収穫は、畑がよく乾いた晴天日行う。
 - いもに傷(特に打ち傷)をつけないよう、浮かし掘機やコンベア型掘取機等で丁寧に作業を行う。
 - 種いもには、株単位で腐敗や病虫害の無い健全な種いもを選別する。

- 4 種いもの貯蔵方法
 - 種いもは、収穫後に「蒸熱消毒」を実施する。
 - 貯蔵中の温度は、13℃を基準に11℃~15℃とする。但し、貯蔵性が悪いコガネセンガンなどは14℃~15℃とする。
 - 貯蔵中の湿度は、85%~95%とする。湿度が低いと、いもの先端部の萎れや腐敗の原因となるので注意する。